

第12回いっしょに国連セミナー
「南部スーダンの独立の是非を問う住民投票について」
を開催しました

2月17日(木) 当事務局は、国連広報センター(UNIC)との共催で、第12回いっしょに国連セミナー「南部スーダンの独立の是非を問う住民投票について」を国連大学コミティールームにて開催しました。

この住民投票は、2005年、スーダン政府と南部の反政府勢力のスーダン人民解放運動・軍(SPLM/A)との間で締結した「南北包括和平合意(CPA)」の履行の最終段階として今年の1月9日から15日にかけて実施されたものです。

当セミナーでは、山下真理・国連広報センター所長の開会挨拶に続いて、この住民投票に監視団員として参加した当事務局の3名の国際平和協力研究員(安藤由香里、河西辰哉、山本弘行)が、それぞれの担当業務(監視活動や監視団本部業務)について説明するとともに、各自の視点から住民投票に対する所感について発表しました。

参加者は、学生やスーダンで活動する国連機関職員やNGO関係者など約70名にのぼり、研究員の発表後、監視団の安全管理、他の国際監視団の動向、今後のスーダン情勢の見通しなどについて多くの質問が寄せられ、大変活気のある議論が行われました。

いっしょに国連セミナーは、「いっしょに国連」キャンペーンの一環として、月に一度、国連広報センター(UNIC)が開催し、参加者がさまざまな国連機関や関係団体の皆さんと一緒に国連の活動やグローバルな課題について学び、理解を深め、具体的に自分に何ができるのかを考えるセミナーです。

